謹んで古夫人様　上げ申さ
春光を背にして日増に暖く
なりまして御健で何よりの事
御伺ひ申し上げます
春もまして本月方
の事で古や東京の辺は
最早和夏の候歟
青葉若葉の市変りの
梅で先般は私の義弟が
三人に対して古衣を
市宮無
と思召なる色々な貴品を
下さいまして何ともお礼
じ度います

と思ふなまる色々な賞品を送
りやうはして 海上とも有りがたう
ご座いました
去る廿世日の夜、三童の
母や その外 他のアイヌ女兒
和人有志者 ご参列し各兒
まして 三人夜学会の賞状賞
品の授與式を挙行し各兒
童に市長吳送の賞品を與へた
市長は 閣下の元へ あなたの永 れ
市長のあらせられをとらを
作りしあり
狂乱列席した彼等は 三童ハ
母もニヤ〳〵 笑ひたり

『ニシパ、エヤイライケレ』
と礼直に謝意を述べやまた
閣下の元に 市長 主人 根の市近影を
拝見 ましては
『ピリカ ふニシパ』
を囁いてゐる 土語 ピリカは
美又 清いの意味でございます
賞品を拝受した三名の兒童ハ
早速 市長を中心 上げた

美又清いの意味でございまして
貴品を拝受しました三名の兄童ハ
早速御礼を申し上げ
等でございましたら彼等は同
時に何も御礼の印まして
殿下元に御夫人様に
献上致したいと申しましたら
アイヌの子を以て御礼の最も
適当でございますまして、孫
もでいいございはせぬが 三人
各自、自分の傳を書くことに
なりました
この繪童自傳「三人集」は繪童
共の寸志まして、幼い心の謝意と
して御夫人様の御膝下に捧げ
ものでございます
この自傳を書くた兄に彼等は
一日の家業のひまを筆をとり
四月の頃に始まり五月の頃に造
約壱ヶ月余りかゝりましたので
そのために御礼言上遅くなり
ました
只今ハ畑の最繁忙期で早朝より
暗くなるまで彼等は土と闘つて

ました

只今は毎の最繁忙期で早朝から
暗くなるまで彼等は土と闘つてゐ
るので近いうちに両天の日を選
み学校に集つて ゆつくり作文
の手紙を書かうとおもつてゐます
悪しからず作品を厳ひます
それから『書き方』成績の方は
閣下に呈上いたしたいとおもひ
尚ほ三童の母様もに作文状を
上げたらと申しましたれう書恋
し顔付きで
『俺、手紙書ケあいもの』
を申します
私は三童の教へ方として、子供
のお守り役として、自分の子が貴
品を戴いた同様の嬉しさや
感謝を以て作文をいたす、
別封小包の内アイヌ細工の
白木盆を同じく細工の城柳
の書棚の三童の頗る秘
乱雑な寫真一番いつあり

別封小包の内アイヌ細工の
白木盆と同じ細工の手拭掛
及書表紙の頗る見事の頗る秘
蔵品なる寫真一葉いつぱら
ぬ品たまうあなた様に差
上げたいのでございます
アイヌ細工は市郡吉の通る寫真に
小刀一丁の仕事で、市場で
見るアイヌ細工と称する精工ふ
りのは多くは和人が鋭利
ふ用具数種を用ひて作
り上げるらしく雅ってゐます
それから前申しました蝦夷
自伝つまり一種の注釋めいた
事を申しましたいので市度います
それは市党に手を出さに談
み苦しい説明が多く約言
せば

一、和人語を誤って覚えてゐることを
例へば暖簾のトラホームをトラホーム目
としたり、しらんだ事を落ちたとか
したりすること、

二、文句が前後してゐること

三、「ち」「つ」「し」「す」の区別なきこと

四、假名に濁点を振らないこと、

五、振らなくてもよい濁

二、文句が前後してることゝ

三、「ち」「つ」「し」「す」の区別なきこと

四、假名に濁点を振らないこと、

五、振らなくともよい場合にも濁点を振る事

例へば　行ぐ、行げは、の類でございます、

以上等の誤りは悪くお身役たる私の罪であることは勿論ですけれども多少の理由もあるのでございます

第一の方は全くあるものゝ不注意であります第二の文句の前後するのは英語直譯や伺うのやうに彼等はアイヌ語直譯の傾があるためでございます

第三の「ち」「つ」「し」「す」の区別は素人の不注意で

第四、第五の濁点を振り忘れ假名に振らむ、振らねばならぬ假名に振らふやうなものは大に理由のあるもので、これは彼等には古来ガギグゲゴザジズゼゾ其他濁音（破裂音）が無いので全く交音するしとが出来ないのでございます、その結果濁音の用ひる場合を了解出来ず、不用のものゝを用ひ必要の場合もいを高小るのうしく思ふにれます

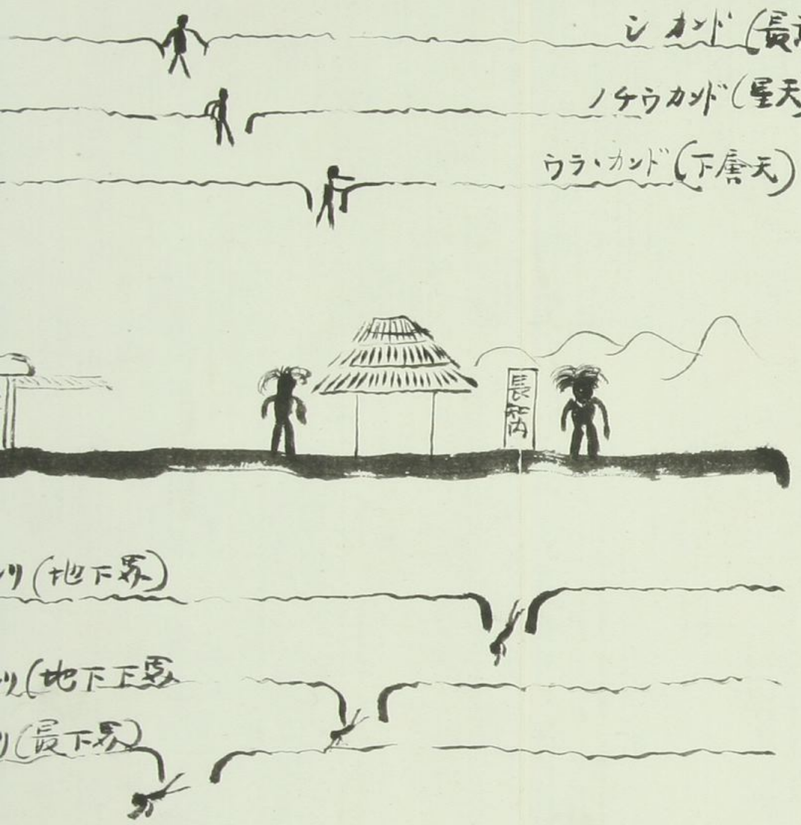
る場合を了解出来ず、不
用のはいをを用い必要の場合
もいを高小るのうしく思ふれます
右の理由でございますから読みぐ
るしい所い市推読を乞ひます
しかし国民読本で始見き

御製
御歌

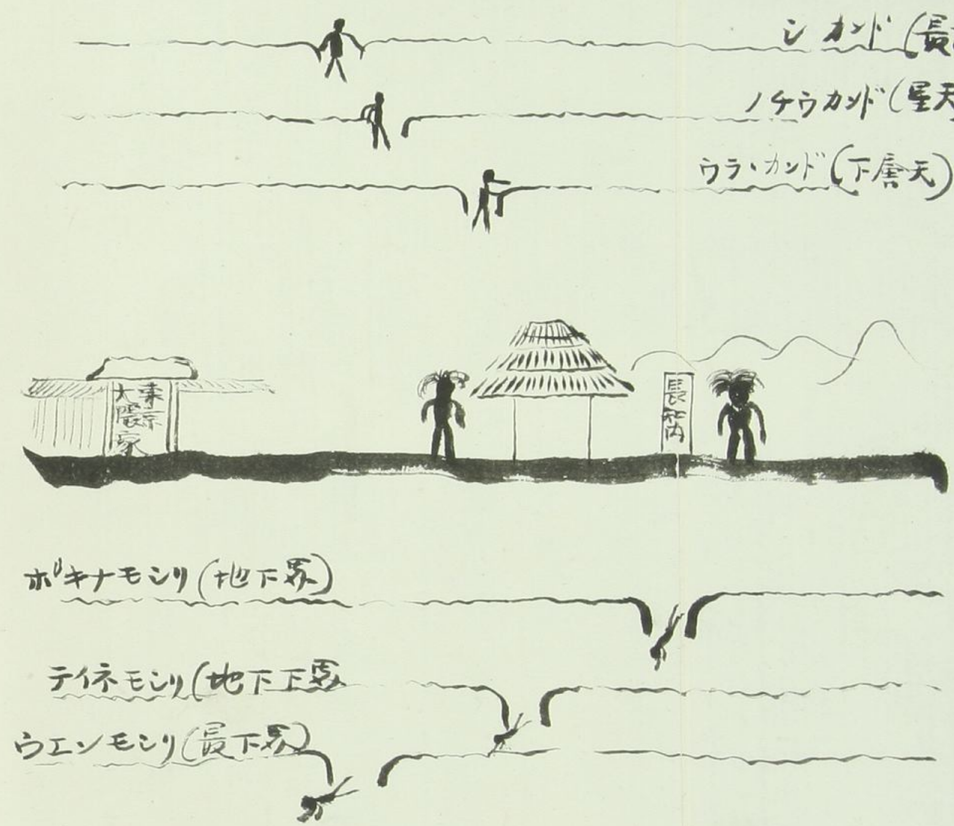
やそのや和おかの古いのに濁音の
見えませぬのを思ひますれば
目今のアイヌの発音も仮名づか
交渉があります
何しろ文字なき国の子供とし
は、あれだけの著述は矢張り
相當の努力なので侍度いました
モルヤら吉松の子供を市松
方の子供と事情の異る一例
をかしたと思ひます
カやとち迷信では市度いまだ
しの兄弟等の天中地いの松
とは金銭その逆さも異にしてね
ます
モルは天は三ッに別れて居ても
三層にかってあるのであります
青空の上に高くれば天井があて
どしらに一ッの穴があるそうでございい
ます、

青空の上に昇れば天井があるどしらに一ツの穴があるそうでございます、その穴から上れば一ツの天界があって神さまが居られ、その天界から又亦登って行くと又も天井があってどこらに穴があり、その穴から上れば第二の天に立つしとが出来ほほほほ昇天しますれば又一個の穴あって、それを匐ひ上ると最高の天に立つのでございます

やも貴通らで私どもの立ってる地下に一ツの世界があり、また下にも世界があり、また下にも三層をなし死んだ人は皆そこへ行くのだとやうします



圖にして見ますれば



図にして見ますれば

しんぶ具合に私どもは三層の天を戴く三層の地上に立てる譯ぶのでございます

星のことをノケウ　花のことをカンノ

日のことをツプ　月のことをクンネツプ

父をケミケ　母をハポ

祖父をイカン　祖母をアヂ

神をカムイと申します

寒冷で古日にかけん アイヌ式建等の草屋根学校はやはりふ天地と言葉を有する奇家に建てるもので 國民読本の種子も此地

と言葉を有する奇縁に連って
るまで國民読本の種子も此地
の小供等の心の中に播られ
つゝあるのですから芽を吹き
出すのは故郷いつの頃でせう
いませう

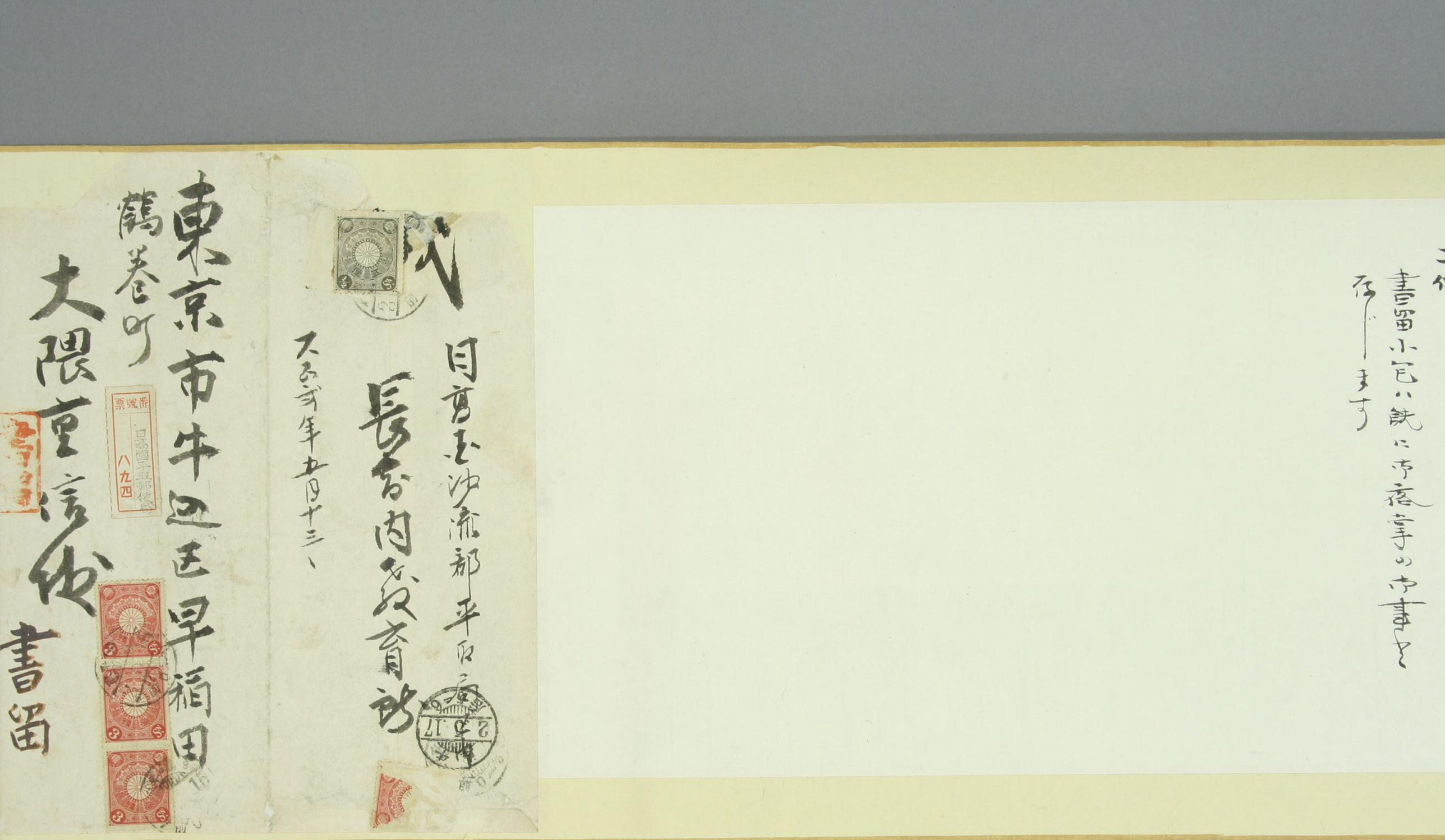
閣下殿下市丸様の益々
御健全ふくしとを祈りまも
三拝

五月拾壱日　　蛍村長知内ミヨ

蛍童の寄
佐敬

御奏討夫人
御陛下

二伸、
書留小包は既に御落掌の事と
存じます



日高玉沙流郡平取村
長谷川武育郎
大正弐年十月十三日

東京市牛込区早稲田
鶴巻町
大隈重信
書留

番號票
日高國平取郵便局
八九四

書留小荷物ハ就ニ市長宛ニ
存ジます

日高玉沙流郡平取村
長谷内義育
大正弐年廿日十三ノ

東京市牛込区早稲田
鶴巻町
大隈重信
書留

番號票
日高國平取郵便
八九四

日高玉沙流郡平取村
長谷内義育
義育

夫人
侍下